

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成22年2月4日 (2010.2.4)

【公開番号】特開2008-152082(P2008-152082A)
 【公開日】平成20年7月3日 (2008.7.3)
 【年通号数】公開・登録公報2008-026
 【出願番号】特願2006-341029(P2006-341029)
 【国際特許分類】

G 0 3 G 15/16 (2006.01)

G 0 3 G 15/01 (2006.01)

【 F I 】

G 0 3 G 15/16

G 0 3 G 15/01 1 1 4 A

G 0 3 G 15/01 1 1 4

G 0 3 G 15/01 1 1 4 B

G 0 3 G 15/01 1 1 1 Z

【手続補正書】

【提出日】平成21年12月14日 (2009.12.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 像担持体と、前記第 1 像担持体と第 1 ニップ部を形成する第 1 転写部材と、第 2 像担持体と、前記第 2 像担持体と第 2 ニップ部を形成する第 2 転写部材と、前記第 1 及び第 2 ニップ部で挟持されるベルト体と、を有し、前記第 1 及び第 2 転写部材に電圧が印加されることで、前記ベルト体もしくは前記ベルト体に担持される記録材へ、前記第 1 及び第 2 像担持体からトナー像が転写される画像形成装置において、

前記ベルト体の移動方向に垂直である前記ベルト体の幅方向にて、前記第 1 転写部材の前記ベルト体に接触する部位の端部から放電を受ける前記ベルト体の領域と、前記第 2 転写部材の前記ベルト体に接触する部位の端部から放電を受ける前記ベルト体の領域とが重ならない様に、前記第 1 転写部材の前記ベルト体に接触する部位の端部の位置と、前記第 2 転写部材の前記ベルト体に接触する部位の端部の位置が異なっていることを特徴とする画像形成装置。

【請求項 2】

前記第 1 及び第 2 転写部材が、金属から成る芯金と、前記芯金の周囲に形成された導電性弾性層と、を備えていることを特徴とする請求項 1 に記載の画像形成装置。

【請求項 3】

前記導電性弾性層の長手方向の長さが前記第 1 及び第 2 転写部材間で同一であることを特徴とする請求項 1 または請求項 2 のいずれかに記載の画像形成装置。

【請求項 4】

前記第 1 転写部材の前記導電性弾性層の長手方向の長さが前記第 2 転写部材の前記導電性弾性層の長手方向の長さよりも大きいことを特徴とする請求項 1 または請求項 2 のいずれかに記載の画像形成装置。

【請求項 5】

前記ベルト体が、弾性体層を有することを特徴とする請求項 1 から請求項 4 のいずれか

に記載の画像形成装置。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１９

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１９】

上述の目的を達成するための本発明に係る画像形成装置の代表的な構成は、第１像担持体と、前記第１像担持体と第１ニップ部を形成する第１転写部材と、第２像担持体と、前記第２像担持体と第２ニップ部を形成する第２転写部材と、前記第１及び第２ニップ部で挟持されるベルト体と、を有し、前記第１及び第２転写部材に電圧が印加されることで、前記ベルト体もしくは前記ベルト体に担持される記録材へ、前記第１及び第２像担持体からトナー像が転写される画像形成装置において、前記ベルト体の移動方向に垂直である前記ベルト体の幅方向にて、前記第１転写部材の前記ベルト体に接触する部位の端部から放電を受ける前記ベルト体の領域と、前記第２転写部材の前記ベルト体に接触する部位の端部から放電を受ける前記ベルト体の領域とが重ならない様に、前記第１転写部材の前記ベルト体に接触する部位の端部の位置と、前記第２転写部材の前記ベルト体に接触する部位の端部の位置が異なっていることを特徴とする２転写部材の前記ベルト体に接触する部位の端部の位置が異なっていることを特徴とする。